

学校関係者評価委員会は「2024 年度学校自己評価結果」に基づいて学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告致します。

1. 開催日時・場所

日時：2025 年 9 月 21 日(日) 13 時 00 分～14 時 25 分

場所：福島医療専門学校 本部・柔整科校舎会議室および ZOOM によるリモート会議

2. 出席委員（敬称略）

《企業等委員》

三瓶 直之 安積野さんぺい整骨院院長

玉川 春美 公益社団法人日本歯科衛生士会 地域保健委員

《学内出席者》

飯島 正治 校長

齊藤 慎吾 教務部長

鈴木 英明 教務副部長

柴田 佐智子 教務副部長

後藤 陽正 柔整科学科長

千木良 美歩 鍼灸科学科長

今泉 正子 歯科衛生士科学科長

鬼越 勇人 事務長

小池 一幸 事務次長

3. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 2024 年度学校自己評価報告
- (4) 質疑応答・意見交換
- (5) 学校関係者評価委員による評価
- (6) 評価の公表
- (7) その他
- (8) 閉会

4. 教育の目的・目標

《建学の精神》

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。

《教育目標》

- ①深い教養と諸能力を持つ人間を育てる
- ②医道に奉仕する心を持つ人間を育てる
- ③自然を敬い、生命の尊厳を重んじる人間を育てる

《教育方針》

①深い教養と諸能力を迫及する「創造教育」

グローバルな時代の中で、高い次元から「より深い哲学的教養を養い、文化を創造する能力」を育てる。

②倫理観と向き合い、人間愛にあふれた「医術教育」

医道を極めるにふさわしい臨床的技術を追求する過程において「思いやりと優しさに裏打ちされた奉仕の心」を育てる。

③美しいものに感動し、自然と人間のあり方を探求する「環境教育」

宇宙では、人間をはじめすべてのものは固有の生命を持ち、どれが中心ということはない。「生きとし生けるものは総て生かされている」という自然観を敬う心情を育てる。

《2024 年度重点教育目標》

■体験・体感させる教育の充実と拡大

■教育 I T 化の推進

5. 項目ごとの評価・課題・意見

※評価は 4(適切)を最も高く、1(不適切)を最も低いものとする。

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0
2) 医療専門学校としての医療人教育がなされているか	4.0
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.9
4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されている	4.0
5) 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.8

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・理念が教育に反映されており良い、
- ・理念や目標は正しく共有できており、概ね達成できていると思われる。
- ・今後における自己評価の在り方として、文科省の指針も適時確認をする必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	評価
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。事業計画の共通理解がなされているか	4.0
3) 運営組織や意思決定機能は、規則や校務分掌等において明確化されているか	4.0
4) 校務分掌における役割と職責が明確化され、有効に機能しているか	3.9
5) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4.0
6) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.9

7) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4.0
8) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4.0
9) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0
10) 組織内におけるパワーハラスメントやセクシャルハラスメントへの対策が図られているか	3.8
11) 学内で新型コロナウイルス感染症対策が図られているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・各組織においても ICT ツールが有効に活用されている
- ・ハラスメントは止めようと呼びかけるだけでなく、「もしこんなことが起きたらどうする？」と具体的な例を用いて、どう対処するかを教員も学生も一緒に学ぶ機会を持つことが大切だと思う。相談体制が整っていることはよいと思う。

(3) 教育活動

評価項目	評価
1) 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか	4.0
2) 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか	3.9
3) 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
4) 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。	4.0
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0
8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	3.7
11) 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか	3.8
13) 関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3.8
14) 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.6

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・各科とも学習時間の確保が課題として挙がっており、教員からの学生支援に工夫がみられる。
- ・ICTの活用が進んでいる点は評価できる。
- ・現在の外部実習の数や種別はどのようになっているか？

→臨床で151施設、臨地で39施設が登録されているが、学生数に応じて実際に実習を行う施設数は変わってくる。

- ・実習施設も実習時間も体制を整えて運営されていると感じた。
- ・教員の資質向上に関しては、研修に参加するだけでなく教員間の共有が図られ取り組みの改善が見られるが、個人の参加に依るところもあり、組織的な研修体制の構築が課題である。

(4) 学修成果

評価項目	評価
1) 就職率の向上が図られているか	4.0
2) 国家試験合格率の向上が図られているか	3.5
3) 退学率の低減が図られているか	3.4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.9

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・国家試験合格率の向上と退学率の低減は引き続き対策が必要である。
- ・担任向けのメンタルヘルス研修や学生の心の不調のサインを早期に発見できる体制があると良い。
- ・学生にとって、心の不調の兆候を知ること、声掛けの仕方や言葉選びを学ぶことは社会に出てから重要なスキルになると思う。
- ・スクールカウンセラーや医療機関など専門家との連携があると良いのではないかな。
- ・歯科衛生士の就職状況について教えてほしい
→多くが歯科医院であるが、歯科医院に勤めた後で福祉施設や行政機関へ就職する者もいる。
- ・卒業生との接点および関係性の強化も課題として挙げられる。

(5) 学生支援

評価項目	評価
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.0
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4.0
7) 保護者と適切に連携しているか	4.0
8) 卒業生への支援体制はあるか	3.9
9) 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.9
10) 高等学校や地域、業界団体との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4.0
11) 学生に対するパワーハラスメントやセクシャルハラスメントを防ぐ対策を講じているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・科、学年に応じたキャリア教育を考える必要がある。外部講師の講座を活用し情報収集に努める。
- ・卒業生への支援体制は同窓会とも話し合い、継続的に検討する必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	評価
1) 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7
2) 学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
3) 防災に対する体制は整備されているか	3.7

<課題と改善方策および委員会の意見>

- ・校舎も設備も年数が経過しているものがあり、計画的または緊急の修繕を想定した予算を準備しておく必要がある。

・防災マニュアルについては、普及浸透させるために携帯版が必要ではないか。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
3) 学納金は妥当なものとなっているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

・今後の学生募集における傾向を教えてください

→イベント参加者は減少傾向にあった。全国的にも少子化の影響がある中で、高校生を低学年の内からいかに来校に繋げられるかが課題である。

・本校の3分野にいかに関心を持たせられるかを考える必要がある。

(8) 財務

評価項目	評価
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	2.0
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

・法人合併後の整備は進んでいるようで安心した。

・特に学生寮、附属施設の事業に関してマイナス収支となってしまう。

→改善に向けて、2025年度より日本語学科学生の寮費を値上げする。附属施設も対策会議にて対応を協議中である。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
4) 自己評価結果を公開しているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

・基本的にはすべて順守できている。問題は見られない。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
2) 学生のボランティア活動を推奨、支援しているか	3.9
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実習しているか	3.8
4) 地域や町内の行事や活動、奉仕作業への参加など、地域と学校との連携を図っているか	3.4

<課題と改善方策および委員会の意見>

・課外活動やボランティア活動はコロナ禍で実施できなかった。現在地域との協力関係も含めて再構築中である。

6. その他の意見

・全体を通して自己評価は概ね適正であるとの評価がなされた。

・働き方改革はどのようになっているか。

→教員はどうしても学生のコアな部分まで入って寄り添った指導をしている。科長を中心に課の業務を管理し、共有と分担をしながら取り組んでいる。

・ハラスメントやモンスターペアレント問題、教員の質の向上と同時に過重労働の問題、AI導入の手法も含めて文部科学省や様々参考にしていただきたい。

・外部の実習において実習指導者同士の打ち合わせの場を持つことができれば、指導内容もばらつきがなく意見交換もでき、意思統一が図れるのではないか。

・卒業生に定期でアンケートを取るなどして、学校で学んだことが就職先でどう生かされているかを把握することができれば、学生の教育に反映できるのではないか。もっと「こんな授業を受けておけばよかった」や「就職先の悩み」などをヒアリングできれば、離職も防げるのではと思う。

・せっかく資格を取ってもその仕事に就かない者もいる。業界としても学校としてもマイナスになる。就職して早期に、何らかの対策をすることができれば離職を防いで業界全体を盛り上げていくことにもつながる。

・都市部と地方との資格者の数の格差も問題である。一度都市部に出ると地方に戻ってこない。

・以前に昼間部と夜間部があったころと異なり、目的意識の差や学生間の学力差も問題かと思う。